

【北海道税務関係団体連絡協議会会長賞】

知ることが第一歩

小樽市立向陽中学校 二年

生田 さくら

「税金は、常に私たちのそばにいます。あなたはそんな税金のこと、ちゃんと知っていますか？」

税金は、健康で文化的な最低限度の生活を営むために必要不可欠で、社会を支えている存在です。

いずれ大人と呼ばれるような年齢になり、社会に出る時、地に足をつけて色々なことを見極めて選択して過ごしていくことが必要となっていくきます。そのためには、流行などを追うだけでなく、税金についてしっかりと理解することも大切なのではないかと私は感じました。突如として現れた新型コロナウイルスの影響で日本のみならず、世界的に混乱が広がっている今こそ税金について知り、社会の仕組みを理解した上で世の中の動きをしっかりと見るべきだと思います。

私がそんなコロナ禍で見つけた、将来の夢は、地域を支えることのできる、市役所の職員です。市役所職員などを含む、公務員の給料は国民の税金から支払われています。だからこそ私は、税金というものを知りたいと思ったし、知るべきなのではないかとも思いました。そうして知識を得て、自分の中で少しでも考えてみることはなりたい自分になるための方法の一つだと思いました。

私たちが身近に感じられるようなものだと、一九八九年に導入された、どんなに小さな子供でも、買い物をしたり、飲食店で食事をした時に負担する消費税がありますが、私たちの暮らしの中ではこの他にもたくさんの税金が発生し、その数は約五十種類にも及びます。集められた税金は、国会で使い道が決められ、医療、年金、介護などの社会保障のためや道路や下水道などの整備の公共事業、教育や研究のため、警察や消防、ゴミの回収や処理などの公的サービスに使われています。他にも、新型コロナウイルス対策やオンラインピック・パラリンピックのためなどにも使われています。

複雑な税金の仕組みを簡単に理解するのは、大人でもとても難しいことだと思います。現に母も税金は難しいものと言っていました。

現在はインターネットも普及し、SNSなども発達しているため、コロナ禍では逆に情報が錯綜することなどありますが、知りたい情報だけをすぐに取り入れることが簡単になっているという点は凄く良いと思いました。

人々が税金を通して支え合っている世の中。

自分のものにした知識はいざという時に自分の力になってくれます。人は自分一人では生きられないということを理解し、自分の生活の土台となっているものを知って過ごす、また世の中の見え方が変わってくるのだらうなと思えました。昨今、ニュース番組などでは税金の不正使用などが取り沙汰されていますが、税金というものは、つまづいて転んだ時も手を差し伸べて寄り添ってくれるようなものであって欲しいと強く思います。